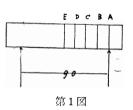
移動荷重をうける梁の過渡応力について(第2報)

長 元 亀 久 男 葉 山 益 次 郎 古 谷 嘉 志

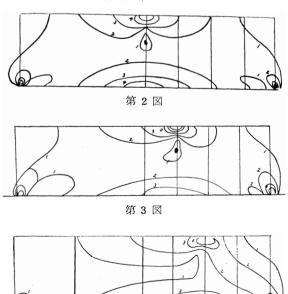
Transient Stress of a Beam Subject to Moving Load (2nd report)

Kikuo NAGAMOTO Masuziro HAYAMA Yosiyuki FURUYA

Photoelastic experiments on the study of stress which are induced by a concentrated load applying to each position of a beam as the fundamental problem, are stated in this paper.

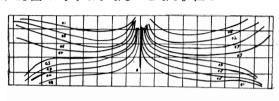


5 図は荷重がB位置にある場合を示してい る,図中に記入せる数字はフリンヂの次数 をあらわしている。この試験片の光弾性惑 度は実験から 0.78/kg/mm として求めら れている。したがって1フリンヂは 0.215 kg/mm², 2フリンヂは 0.43 kg/mm² … ………の応力をあらわすことになる。 つぎに同じジアレルフタレートの試験片を 用いて実験により等傾線を求めた。すなわ ち荷重がEの位置にあるときの等傾線は第 6 図のように、Dの位置にあるときの等傾 線は第7図のように、Cの位置にあるとき の等傾線は第8図のように、Bの位置にあ るときの等傾線は第9図のように求め得ら れる。図中に記入せる数字は検光子からみ て反時計まわりの角度をあらわ すのであ る。これから荷重が E, D, C, B の各位

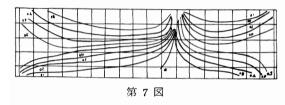


置にあるときの主応力線を求めれば 第10図,第11図,第12図,第13図のように得られる。 これらの実験結果から荷重が Eの位置にあるとき B, C, D, E の各位置におけるせん断応力を考えてみる

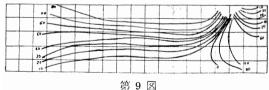
に、それぞれの位置をあらわすのに最初の文 字は荷重のある位置, つぎの文字は応力を考 えている位置と約束すれば、 いまの場合は E~B, E~C, E~D, E~E と記することが できる。これらの位置におけるせん断応力は 第14図 に示すようなものとなる。但しE~

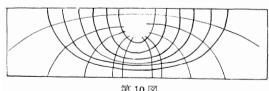


第6図

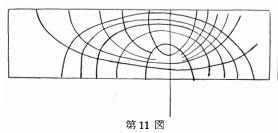


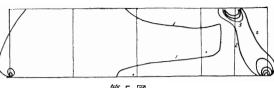
第8図





第10図





第5図

E は着力点近傍の分布を示している。荷重が D の位置にあるとき, B, C, D, E の各位置にお けるせん断応力は第15図に亦すようなものとな る。但しD~Dは着力点近傍の分布を示してい る。荷重が C の位置にあるとき, B, C, D, E の各位置におけるせん断応力は 第16図 に示す ようなものとなる。但し C~C は着力点の近傍 の分布を示している。荷重が B の位置にあると き, B, C, D, E の各位置におけるせん断応力 は第17図 に示すようなものとなる。但し B~ Bは着力点近傍の分布を示している。以上は本 問題の基礎実験として行った実験の一部を報告 したもので整理検討したものはつぎの機会に報 告したい。

- (1) 長元,葉山,古谷,富山大学工学部紀要,9,1 2, (昭和33-3)
- (2) Coker; A Treatise on photo-elasticity (193

福原達三:光弾性実験による simple Peam に おける内力の研究,機械学会誌,30,124,(昭和 2-8)

